

研究・調査報告書

報告書番号	担当
481	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Moderate alcohol consumption is associated with reduced long-term cardiovascular risk in patients following a complicated acute myocardial infarction 適量飲酒は心不全を合併した急性心筋梗塞後患者の長期心血管リスクを低下させる	
執筆者	
Brugger-Andersen T, Ponitz V, Snapinn S, Dickstein K; OPTIMAAL study group.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Int J Cardiol. 2009 Apr 3;133(2):229-32.	
キーワード	
適量飲酒、心筋梗塞後、予後、OPTIMAAL 研究	
要 旨	
目的： 冠動脈疾患患者の予後に対する飲酒の影響は明かでない。本研究では飲酒が合併症のある急性心筋梗塞後患者の総死亡、心血管疾患死亡および入院に及ぼす影響について検討した。	
方法： 本研究は西ヨーロッパ 7 カ国において、心不全または左室機能低下がある心筋梗塞後症例 5477 人が参加した OPTIMAAL 研究の部分研究である。ロサルタンまたは ACE 阻害薬に割り付け (中央値 3 日) 後、心筋梗塞発作以前の平均飲酒量について調査を行った。飲酒量によって患者を非飲酒者(2160 人)、適量飲酒者 (1-7 単位*/週, 2753 人)、および過量飲酒者 (> 7 単位/週, 545 人)の 3 群に分け、当初規定した臨床予後との関連を検討した。	
結果： 平均追跡期間 2.7 年に 946 人が死亡した。年齢および喫煙状況で調整した解析によると、非飲酒患者に比べて適量飲酒患者の総死亡は 24%低く (P<0.001)、心血管死は 26%低く (P<0.001)、心血管疾患による入院も 8%低かった (P=0.030)。非飲酒者と過量飲酒者との間にはこのような関係は見られなかった。	
結論： 本研究の結果、適量飲酒は合併症を有する心筋梗塞後患者の生命予後を改善することが判明した。非飲酒者と過量飲酒者の予後は比較的悪く、両群に差はなかった。 *注欧米で用いられる 1 飲酒単位はエアノール 11~13g で、ビールなら 350ml 1 本に相当する。	